

■ **真島利行** 化学者。東北帝大創立とともに教授，女子に門戸を開放し，理化学研究所・大阪帝大などでも指導的役割。

まじまとしゆき

佐賀の乱・ 1874 = 京都の医家に子に生まれる。

父利民は大坂の緒方洪庵の適々斎塾に学び，ついで長崎に赴き英国人医師に学ぶ。

**明治14年政変**1881 = 7歳：

岩倉具視没・ 1883 = **9歳**：

帝国大学始・ 1886 = 12歳：父が病没すると，

初の対等条約1888 = 14歳：上京し，

**帝国憲法発布**1889 = 15歳：

大本教・ 1892 = **18歳**：

\_\_共立学校から第一高等学校にすすんで，教授久原躬弦の感化を受け，

**日清戦争始**・ 1894 = 20歳：

白馬会・ 1896 = 22歳：\_\_帝国大学(翌年東京帝国大学となる)理科大学化学科に入学，有機化学を専攻。

Bushidou・ 1899 = 25歳：\_\_卒業し，同大学助手を経て，

田中正造直訴1901 = **27歳**：

日比谷公園・ 1903 = 29歳：\_\_助教となる。

**日露戦争終**・ 1905 = 31歳：

**韓国反日暴動**1907 = 33歳：\***「漆の主成分に関する研究」(第1報)発表後，留学のため渡欧。**

ドイツのキール大学でカール・D・ハリエスに就き，ついでスイスのチューリヒ工科大学でウィルシュテッターにアニリン酸化の研究を学ぶ。イギリスに渡り，ロンドンの王立研究所付属デービー=ファラデー研究所でデュワの承認を得て，漆の研究のため，オゾンの分解酸化，白金による接触還元などを学んで，

韓国併合・ 1910 = **36歳**：

大逆事件判決1911 = 37歳：

**明治天皇没**・ 1912 = 38歳：

\_\_帰国，創設直後の東北帝国大学教授に任ぜられた。  
広汎にわたる東洋産天然有機物成分の化学的構造研究を目ざし，トリカブト属アルカロイド，インドール誘導体，紫根の成分，感光色素，染料その他の合成などに関する研究などを行うとともに，\_\_創立以来女子に門戸開放の方針をとり，黒田チカラ女子学生・研究員を指導。

**ロシア革命**・ 1917 = 43歳：\_\_**「漆の主成分に関する研究」で帝国学士院賞を受賞。理化学研究所の設立に参画し同主任研究員，**

**ベルサイユ条約**・ 1919 = **45歳**：

**原敬首相暗殺**1921 = 47歳：

円本時代始・ 1926 = 52歳：帝国学士院会員。

金融恐慌・ 1927 = 53歳：\_\_**「日本化学総覧」の編集・刊行を開始(のち日本科学技術センターに引きつがれる)。**

共産党事件・ 1928 = **54歳**：

**世界恐慌**・ 1929 = 55歳：

\_\_大学・研究所の創設期にあたって，東京工業大学教授，

海軍軍縮条約1930 = 56歳：

\_\_北海道帝国大学教授，

**満州事変**・ 1931 = 57歳：

五一五事件・ 1932 = 58歳：

\_\_大阪帝国大学教授および同大学産業科学研究所長，のち理学部長，

二二六事件・ 1936 = 62歳：\_\_ドイツ国学士院会員，

**日中戦争始**・ 1937 = **63歳**：

**日米開戦**・ 1941 = 67歳：

創価学会検挙1943 = 69歳：\_\_**第3代大阪帝国大学総長となり，経営と指導に貢献。**

**敗戦**・ 1945 = 71歳：

新憲法公布・ 1946 = **72歳**：\***退任し，**

三大事件・ 1949 = 75歳：\_\_**文化勲章受章して，**

**独立回復**・ 1951 = 77歳：

**55年体制始**・ 1955 = **81歳**：

全国総合計画1962 = 88歳：\_\_**没した。**

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，